

俳句の可能性 学習ノート①

3年（ ）組（ ）番（ ）

季語(夏)

切れ字

どの子にも

涼しく風の

吹く日かな

飯田 龍太

五

七

五

「鑑賞」

ここは公園の木陰なのだろうか、それとも海辺のことなのだろうか。
(複数) の (子ども) たちに (涼しい風) が平等に吹いていて、なんともさわやかでのんびりとしている。

作者は偶然、通りかかったのだろうか、とても心地よさげにしている子どもたちの姿に美しさを感じ、その感動を「 (かな) 」と切れ字を使うことで、これ以上は言えないという断念を表している。

〈俳句の約束事〉

① (季語) ……季節を示す題材を詠みこむ。

参考 「歳時記」 Ⅱ 季語を (春夏秋冬) に分類整理した書物。

② 五・七・五の十七音 ……俳句の (定型)

①と②をあわせて「 有季定型 」という。

③ (切れ字) ……一句の感動を深め、強める働きをする。

かな・けり・や

季語(冬)

切れ字

病床

いくたびも

雪の深さを

尋ねけり

正岡

子規

「鑑賞」

雪が激しく降っている。しかしながら (病床) の子規は、自らの眼でそれを確かめることができない。そうして病室に出入りする人に外の様子を尋ねては (見えない雪景色を想像) している。

またここで、「けり」と切れ字を用いて (これ以上は言えない) という断念を示している。 想い

俳句の可能性 学習ノート②

季語(冬)

跳箱とびばしの 突き手一瞬・冬が来る

友岡 子郷

〔鑑賞〕

「跳び箱に手を突いた（一瞬）」と「長い期間の（冬）」を一気に結び合わせたのは宙で触れた（澄んだ大気）だった。「突き手一瞬」には一切（助詞）が使われず（緊張感）が生まれている。

季語(春) 主格 擬態語

切れ字

たんぽぽの | ぽぽと絮毛わたげの

たちにけり

加藤 楸邨しゅうそん

〔鑑賞〕

春にタンポポが咲く様子を、「ぽぽ」という（擬態語）を使って、（軽やか）に表現している。

〈技法〉

①（擬態語）・・・その様子を言葉で表現。「さらさら」「にこっ」

反復法

体言止め(夏?) 死に場所

分け入っても 分け入っても 青い山

種田 山頭火さんとうか

〔鑑賞〕

「有季定型」は俳句の約束だが、時にその約束からはみ出してしまう作品もある。「分け入っても」の（反復法）でくり返されることで行く先を見う姿を、「青い山」の（体言止め）で突き放された姿が伝わる。

（種田山頭火）の句は、自由な音律から「自由律俳句」とよぶ。

〈技法〉

- ②（無季）・・・季語のない俳句。
- ③（自由律）・・・五・七・五の定型以外の音となる。
- ④（反復法）・・・語句のくり返しを使ってリズム表現方法。
- ⑤（体言止め）・・・句末を体言で止め、余韻を残す表現方法。

俳句の可能性 学習ノート③

3年（ ）組（ ）番（ ）

俳句を作ってみよう

秋↑季節

- ① 季節・季語（□）を決める（俳句中に示す） 例 く とんぽ かな
- ② 季語にまつわるエピソードをまとめる
- ③ 表現技法（直喩・隠喩・擬人法・体言止め・字余りなど）を工夫する。（横に線を引いて示す）

直喩法

例 雪のごとく く